

「お孫育て」

ここ数年孫育て関連の本が多く出版されています。育児書は江戸時代にもありました。日本初の育児月刊誌は昭和40年の発刊で、それ以降需要が高まり、子育てに関する出版物は増加の一途です。健やかな成長発達を願う大人たちの思いから育児論が変遷し、その遷り変わりからこのような孫育て本が必要になってきました。孫育て本の主な内容は、「子育ての今昔」と「祖父母世代と親世代のつきあい方」の2本柱で、祖父母は子育ての新常識を知り、ママパパと一緒に仲良く子どもを見守っていきましょうというものです。

孫育てにおいて、産後のママの心と体について理解することは大事です。妊娠中もそうですが、産後の心身も一人一人違います。子どもが中心になりがちな産後こそ、ママへの気配りをしてあげましょう。産後に心身を委ね甘えられる人がいることはとても幸せです。

産後のサポートについては祖父母を含めた家族で事前に話し合っておくといいですね。子育てで祖父母の手を借りたければ早めに相談しましょう。祖母も仕事を持って

いたり、ボランティアや趣味で高年期を謳歌されている方は多くいます。娘や孫のために断る勇気を持たず、ご自身の気持ちを押し込めている方もいるでしょう。孫可愛さのあまりご自分を犠牲にされることもあります。体力的なことから、長時間や毎日の子ども相手は負担になるかもしれません。誤解や行き違い、無理が生じないよう、親しい間柄だからこそ決めごとを作っておくことも必要ですし、意識して「ありがとう」の気持ちを言葉で伝えることも大切です。

子どもは、身近な人が仲良くしている姿を見るのが大好きですし安心します。

次号では「冬場の育児」。その次は「孫育ての実際と祖父母の思い」をお話させていただきます。



子育てひろっぱ「めぐみ」代表
弘田 恵子

大阪府立母子保健総合医療センターNICUや母乳育児相談室で勤務。その後20年間高知市内のめぐみ保育園で園長を務め、4月から子育てひろっぱで、妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)、上級睡眠健康指導士。

